

ニューカマーの視点から見た在日朝鮮人とその未来

「事実としての在日の進行」



「静岡本名裁判」の含意(参照 2)

- 三重の「二項対立」の呪縛
- 收拾はすでに遅い？



「在日」の解消危機

- 20年くらいか？(参照 1)
- 新旧統合の兆しが弱い
- 同胞団体の衰退



共生「主体」そのものの解消という結末？

- 「帰属」問題の円満な解決なし
 - ← 「日本人でない日本国民」の承認は？
- 集団としての「共生」戦略立てられるか？
 - ← 自前の「調査研究能力」涵養可能か？
- 南北統一に備えることができるか？

vs.

「変わらない日本社会」



今年で25年目の「91年合意」以来の「(変化の)滞り/(在日の)漂流」

- 当時の合意事項のほとんどに進展なし(参照 3)
- 2009年新入管法は「飴 ≤ 鞭」の一元的な外国人管理体制



「一億総活躍」社会

- 純血主義に基づく名誉ある衰退？
- 厳しく枠をはめた「移民政策」
 - ← 今後は東南アジアからの「移民」が軸



「開かれた」国家となれるか？

- 多様性の欠如と少子高齢化の下の衰退
- cf. 日本における多文化共生の一般的な見方：
「移民者が日本にいる間社会の中で問題を起こさずに一緒に生きていくこと」
- 弱まる「誘引力」の下での悪循環？
- 外国人の人権改善と「内なる国際化」進展遅し